

エピソードの宝庫 善長寺



案内板によると、このお寺は、
戦国時代。1523年3月に戦国
武将 赤井家範によって建てられ
たそうです。目的は、戦死した兄
赤井信家の霊をとむらうため。
ん？ 赤井…。館林城築城伝説の
ある赤井照光の関係者か?! これ
がエピソード①

(エピソード① 赤井家範さんって、何者?)

赤井照光の系図を見ても、どこにも「赤井家範」の名がない。館林城ができたのが1556年といわれているので、照光=家範と見るのが自然かと思う。
(実際、館林双書 15巻「館林の社寺」にはそう書かれている) それなら、なぜ同一人物なのに2つの名前が記録に残っているのでしょうかね。「館林の社寺」によると、長野県出身の赤井家堅さんが、館林の青柳城主赤井氏に婿入りしたため、混乱が生じたと書かれています。つまり、館林にもともといた赤井一族と、赤井家堅(父)・信家(長男)・家範(次男)がいたということです。館林にもともといた赤井一族としては、「認めたくない!」という思いで、家範さんの名を載せなかったのかな? 善長寺に残る記録から、そんなエピソードが妄想できます。

(エピソード② 毛呂因幡の変)

1570年、館林城を家来の毛呂因幡守季忠が奪い取った事件。当時の城主は、赤井照景。この事件に対し、おじの足利城主長尾顕長が奪還に動いたが、館林城は守りが固く、戦いは長引いた。そこで、館林の5つの大きなお寺が、戦いを止めるために動いた。その話し合いの場が、善長寺。しかし、この話し合いが終わったところで長尾顕長の軍が寺を取り囲んだので、毛呂家のひとびとは家来ともども、あきらめて自殺した。その遺体は、三王山古墳に埋められたという。

このエピソードは、江戸時代に書かれた「館林盛衰記」「館林記」にのせられているお話です。この本はあまり信用できないものと評価されてしまっ

います。史実では、この年、当時館林も支配していた上杉謙信の家来(広田氏と長尾顕長)の間で館林城主の交代があったことから、きっと何かあったのでしょうね。事件の現場となった善長寺に真実を知る鍵があるかも…

(エピソード③観音堂の由来)

このお堂には、十一面観音像がまつられている。建てられたのは1345年ごろ。善長寺が建てられるよりずっと前のことです。

このころ、城沼の北側で青白い人だまが飛んだり、沼の方から血なまぐさい生暖かい風が吹いたり、たびたび不思議なことが起こった。また、夜更けになると一つ目小僧や大入道が現れた。それを、人々は恐れ、近くを通る人もいなくなり、田畑は荒れてしまった。そこへたまたま通りかかったお坊さんが、



「観音様をまつり、朝夕お祈りをすれば、このような出来事はなくなるだろう。」と言ひ、一体の観音像を作り、村人に渡した。これが、ここにまつられた十一面観音像だという。おかげで、その後はもとの豊かな村に戻ったというお話。

このエピソードの十一面観音像には安産・子育てのご利益があるといひます。村が豊かで人々が安心して暮らせるようになれば、人口が増えるのは、自然の流れ。みんなでこの観音堂にお参りして、地域の人口をもっと増やしましょう。

(エピソード④お辻・お松の悲劇)

本堂のお向かいに、「お辻・お松の墓」がある。お辻とは、徳川四天王の一人榊原康政の側室。お松はそのお付きの女性。お辻さんは、榊原康政のお気に入りだったため、先輩の側室たちから嫉妬され、ひどいじめにあっていた。そのため、1605年4月の早朝、お松とともに城沼に身を投げて自殺したという話。



この二人の死については、城沼で舟遊びをしているとき、沼の主に欲しがられ舟を止められてしまったので、仕方なく入水したという話もある。いずれにしても、村人はその悲劇的な死を悲しみ、その霊をなぐさめるため、お辻が好きだったつつじの木を1本植えた。これがつつじが岡公園の起源となったといわれている。

昔もいじめがあったんですね。お二人はいじめが社会問題となっている現状をどのように感じているでしょうね。

(他にもきっとエピソードがありそうなもの)

①馬頭観音

山門の横に馬頭観音がたくさん集めてまつられている場所がありました。馬頭観音といえば、荷物を運ぶなど人のために役に立ってくれた動物の霊をなぐさめるために建てるものなので、きっとエピソードがあるのでしょうね。



②魚魂碑

1974年に建てられた。川魚料理店の人たちが、料理のために犠牲となった川魚を供養するための碑です。毎年、魚魂供養の法要が行われているそうです。優しいですね。

